

Textiles in Indonesia
The Eiko Kusuma Collection

特別展 | エイコ・クスマ・コレクション 木綿の島々

インドネシアの染織

◆講演会：8月9日（土）午後2時より

「染織でめぐるインドネシアの島々」

講師／渡辺万知子（染織作家）

左：男性用肩掛け・腰布、アロール島。中：肩掛け、カリマンタン島。右：女性用腰布、ティモール島。

2003年 7月29日（火）～9月7日（日）

休館日：8月4日（月）、11日（月）、18日（月）、25日（月）、9月1日（月）

開館時間：午前9時～午後5時（入館は4時30分まで）

入館料：一般300円、小中学生100円、65歳以上および障害者の方は無料、土曜日は小中学生無料

ギャラリートーク：第1回／8月5日（火）午後2時 第2回／8月22日（金）午後2時 講師／当館主任学芸員 福井泰民

渋谷区立松濤美術館

The Shoto Museum of Art

東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL 03-3465-9421

■JR渋谷駅徒歩15分 ■井の頭線神泉駅徒歩5分

多数の島々からなるインドネシアは染織文化の宝庫であるとも言われています。本展はインドネシア、ジャカルタ在住の元日本人女性、エイコ・アドナン・クスマ氏が長年、収集した膨大なインドネシアの染織品から選りすぐった優品を紹介します。

第一部は、日本未公開の木綿による染織品約75点で構成されます。スマトラ島やジャワ島といった主要な島以外のカリマンタン、スラウェシ、ティモールなどの島々にはインドネシア古来の伝統を残す地方色豊かな染織文化が残されています。

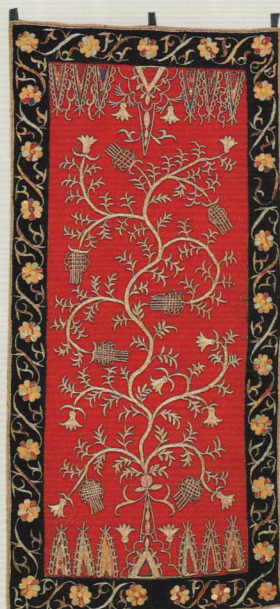
スンバ島の華やかで不思議な模様の経緋の布や力強い藍染経緋の布。フローレス島の刺繍を想わせる緯紋織や綴織の素朴で繊細な衣や地味で細かい柄の経緋の布。南・中ティモール県の明るく華やかな男性用肩掛け。スラウェシ島の藍、赤、黄の大胆な儀式用布。西カリマンタン州の呪術的な世界を想わせる原始的な模様の布など各島には土着性と神秘性に満ちた染織世界が繰り広げられています。

第二部は、福岡市美術館所蔵のエイコ・クスマ・コレクションからスマトラ島とジャワ島の37点の染織品を陳列します。

アチェのアップリケや刺繍の布、ミナンカバウの緯紋織り。南スマトラ州、パレンバン島の華やかな絹の経緯緋布や刺繍の儀式用布。ランブンの刺繍や緯紋織りなど、スマトラ島は染織の多彩さで有名です。貴族階級の衣装をはじめ、祭礼、儀式の際に身にまったり、会場を飾った染織品を中心とした華やかな絹・木綿製の布の優品15点を紹介しします。

加えて、ジャワのチレンボン、ジョクジャカルタ、ソロ、プカロンガン、クドゥスなどで作製された草花紋などの独自の美しい模様を展開している丹念な手仕事のジャワ島各地の代表的ローケツ染めの技法によるカイン・パティックいわゆるジャワ更紗から、選りすぐった22点を紹介しします。

インドネシアの代表的な島々の木綿を主とする全110余点の染織で、その多様な美しさを味わっていただきたいと思います。



儀式用壁掛 スマトラ島、ランブン州
刺繍 毛織物、刺繍糸、燃金糸、雲母



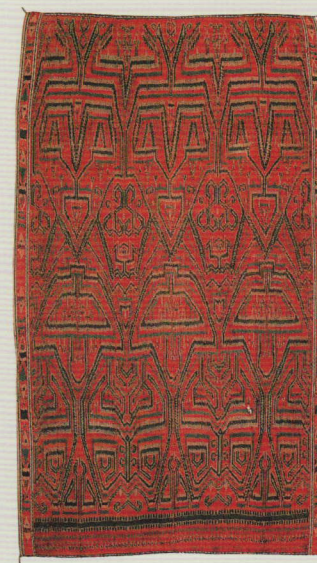
筒形腰衣 赤頭巾ちゃん文様更紗
ジャワ島、クドゥス ローケツ染、木綿



背負子 カリマンタン島、
クニヤ・ダヤック人、カヤン・ダヤック人
編組、ビーズ編、ビーズ細工



男性用肩掛・腰布
スンバ島、ゴディ、スンバ人 経緋、編込、木綿



儀式用布
カリマンタン島、サラワク州(マレーシア)、イバン・ダヤック人
経緋、経緋、編込、木綿



男性用肩掛・腰布
ティモール島、東ティモール民主共和国 経緋、経緋、編込、木綿



儀式用幅(部分) スラウェシ島、トラジャ人 防染染(手描き)、刺繍(プランケット・ステッチ)、木綿



女性用腰衣(部分) スンバ島、スンバ人 経緋、経緋、経紋織、ビーズ編、木綿

■ギャラリートーク

第1回 8月5日(火) 午後2時

第2回 8月22日(金) 午後2時

講師/当館主任学芸員 福井泰民

■美術映画会

8月23日(土) 午後2時より

「葵祭り」、(京都の魅力 美のすべてシリーズより)

「写実と絵画について」、(近代美術、実践と論争シリーズより)

■美術相談

8月2日(土) 午後2時より

水野道子(水彩画)、磯村敏之(油彩画)

9月7日(日) 午後2時より

和田義彦(油彩画)、佐久間公憲(油彩画)



■次回予告: 9月23日(火)~10月5日(日) トルコ現代絵画展及び合同手工芸品展